

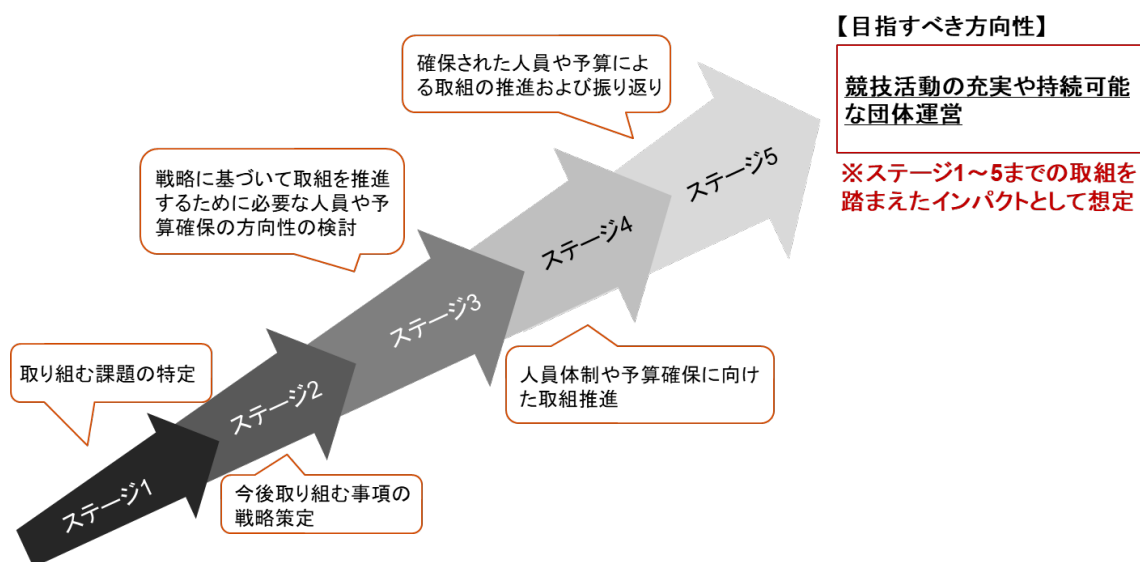
第3章 ロジックモデル

3-1 ロジックモデル作成の目的

令和4年8月に文部科学省より公表された「障害者スポーツ振興方策に関する検討チーム報告書(高橋プラン)」では、スポーツ団体は、「健常者と障害者のスポーツを可能な限り一体のものとして捉え、競技活動の充実や持続可能な団体運営図っていく」ことが示されている。このような背景を踏まえて、ロジックモデル¹は、本事業における現状調査の結果を踏まえ、「スポーツ団体の目指す方向性」である「競技活動の充実や持続可能な団体運営を図っていく」ための道筋を示すことを目的とし、作成した。

3-2 ロジックモデルの内容

ロジックモデルについては、各スポーツ団体の状況に合わせて、目指す方向性に向けて自団体が今後取り組む事項を把握できるようステージに分けて、情報を整理した。



図：ロジックモデルにおけるステージのイメージ

ロジックモデルは、以下のような考え方にに基づき、情報を整理した。

表：ロジックモデル作成の考え方

カテゴリー	内容
インプット	・ 各スポーツ団体で活用できる資源(人員や予算 等)
アクティビティ	・ 各スポーツ団体が参加/実施する具体的な活動
アウトプット	・ 具体的な活動を通じて得られる事項 ・ 具体的な活動を通じて得られる成果物
アウトカム	・ 次のステージへの結節点として、新たな取組への示唆

¹ ロジックモデルとは、事業者組織が最終的に目指す変化・効果の実現に向けた道筋を体系的に図示化したものであり、事業の設計図と例えられることもある

(日本財団「ロジックモデル」<https://nf-startup.jp/dictionary/details/logic-model/>)

インパクト	<ul style="list-style-type: none"> 各ステージの取組を経て、スポーツ団体の目指す方向性を達成 (各ステージにインパクトの項目は設けない)
-------	--

ステージ①のロジックモデル

ステージ①のスポーツ団体は「自団体の状況を分析・把握していない」状態や「自団体の状況を分析・把握しているが、課題を特定していない」状態であると考えています。これらの状態にあるスポーツ団体では、「自団体の課題を認識していない」ケースや「課題の解決方策を検討していない」ケースが考えられる。

実際に本事業の現状調査にて把握した、中長期戦略を策定しているスポーツ団体が約 66%に留まることから、今後スポーツ団体の中長期戦略を策定する団体が該当するステージであると考えられる。

ステージ①では、上記のようなスポーツ団体が、今後取り組む事項(アクション)を検討するために、課題を特定する段階として設定した。また、このステージでは、スポーツ団体内の課題の特定等で、外部からの意見が必要な場合に、専門家を招聘することが想定される。

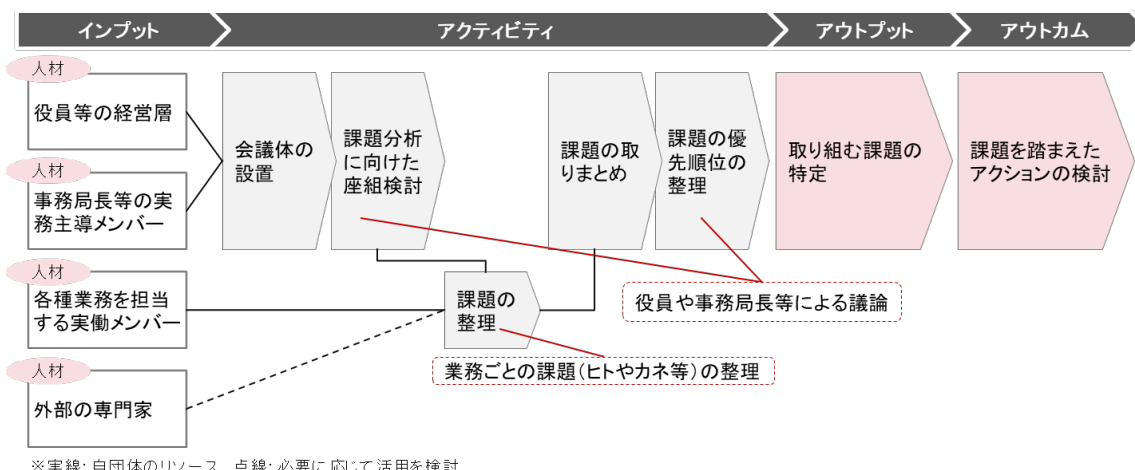


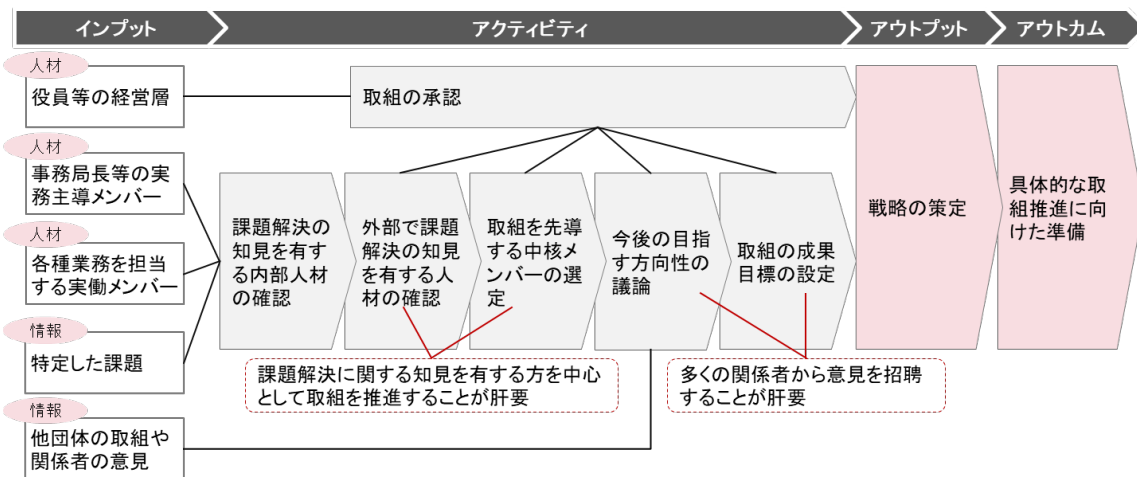
図:ステージ①のロジックモデル

ステージ②のロジックモデル

ステージ②のスポーツ団体は「自団体の状況を分析・把握し、課題も特定しているが、その後のアクションがない」状態であると考えられる。これらの状態にあるスポーツ団体では、「課題特定後に具体的なアクションを先導する人材がいらない」といった課題を抱えていることが想定される。

本事業の現状調査においても、多くの業務を 1-2 名の兼任正職員で運営している状況であることや、単一団体に様々な取組を推進するための人材が不足していることが明らかとなった。

そのためステージ②では、ステージ①での取り組む課題の優先順位を踏まえ、課題解決に向けた取組を推進するために人材を確保することや戦略を策定する段階として設定した。また、このステージでは、多様な意見を招聘するための活動や他団体の取組の情報収集が必要となることが想定される。



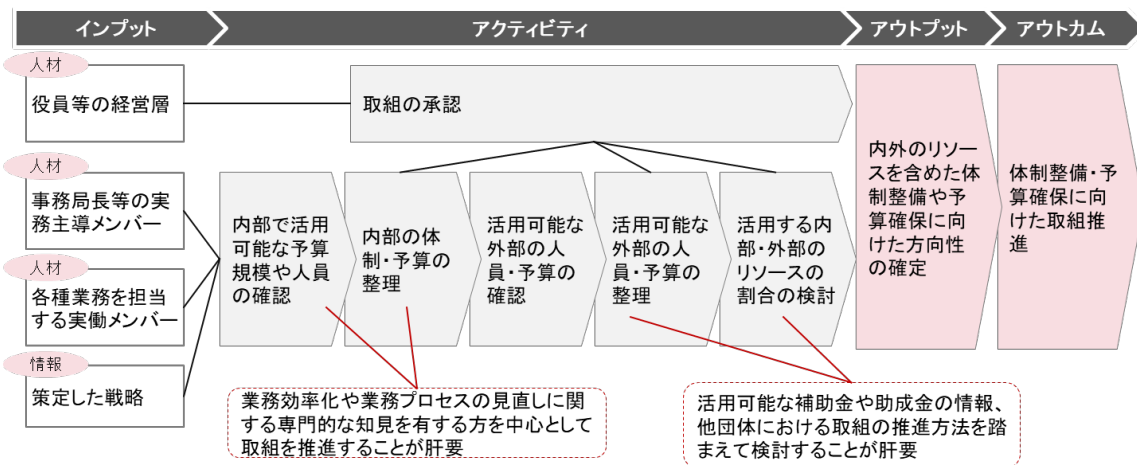
図：ステージ②のロジックモデル

ステージ③のロジックモデル

ステージ③のスポーツ団体は「自団体の中長期戦略を策定しているが、具体的な取組に繋がっていない」状態であると考えられる。このような状態にあるスポーツ団体は、「取組を推進するための体制や財政基盤がない」といった課題を抱えていることが想定される。

本事業の現状調査においても、今後注力したい業務領域で、「人員不足」や「資金不足」の課題が各スポーツ団体で想定されていることに加え、各業務領域で専門家を配置することが、現状の資金規模から現実的でないといったことが明らかとなった。

そのためステージ③では、取組を推進するための体制整備や予算確保に向けて、様々な検討を重ねる段階として設定した。体制整備を図る際のポイントとして、自団体内部の体制や予算を整理するだけでなく、外部リソースの活用も検討する段階であると考えられる。



図：ステージ③のロジックモデル

ステージ④のロジックモデル

ステージ④のスポーツ団体は、「自団体の課題に対する中長期戦略を策定し、具体的な取組を推進しようとしている」状態であると考えられる。このような状態にあるスポーツ団体は、「取組を推進するための体制が強化できていない」、「財政基盤が不足している」といった課題を抱えていることが想定される。

本事業の現状調査においても、取組を推進する際に、団体の共通理解を構築することが課題として想定されることや、資金不足や人員不足により、取組が十分でない業務については、他団体との連携が必要であることが明らかとなった。

そのためステージ④は、ステージ③で整備された取組推進に向けた体制や予算に基づき、具体的に取組の推進に至るまでの段階として設定した。具体的な取組推進に至るためには、団体の共通認識構築や具体的に取組を推進するための人材や予算の確保が必要であると考えられる。

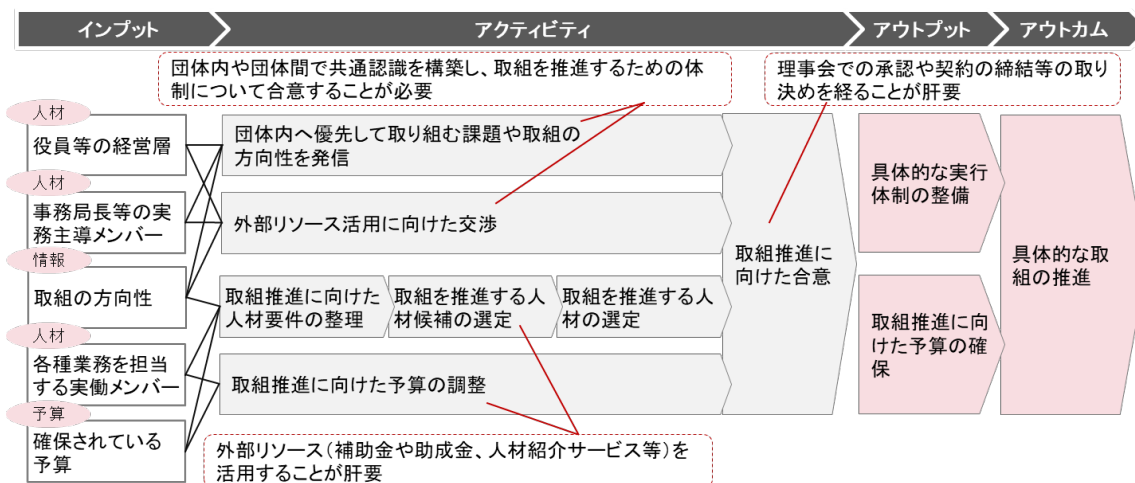


図:ステージ④のロジックモデル

ステージ⑤のロジックモデル

ステージ⑤のスポーツ団体は、「自団体の課題に対する中長期戦略を策定し、戦略に基づいた取組を推進している」状態であると考えられる。

本事業の現状調査では、このような状態にある団体においては、取組を開始するはじめの段階で、負荷(人員や予算)が一時的に高まるケースがあることが明らかとなった。また、取組を推進することにより、スポンサー獲得等の成果が期待されることも明らかとなっている。

そのためステージ⑤は、具体的な取組を推進しつつも、取組の見直しや高度な取組への発展を見据えて評価・検証する体制の整備が重要であると想定される。

そして、ステージ①からステージ⑤までの取組を実行することで、スポーツ団体の持続的な運営に寄与するものであると考えられる。

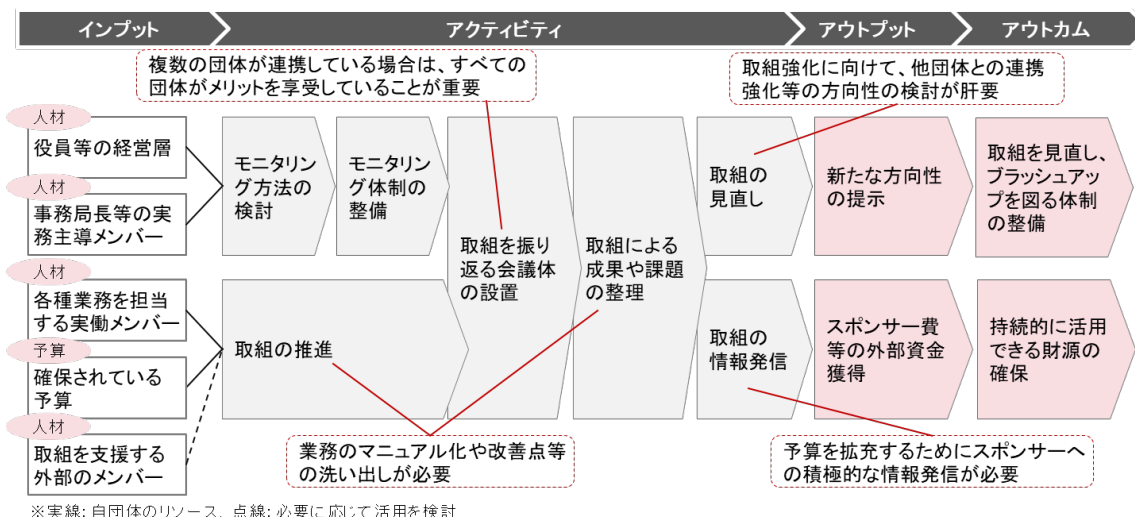


図:ステージ⑤のロジックモデル